

信濃美術館整備検討にかかる意見交換会（中信地区）

日 時：平成 28 年 10 月 15 日（土）午後 2 時から午後 4 時

場 所：松本市あがたの森文化会館 2－7

参加者：21 名

概 要

[主な意見]

<運営・整備姿勢>

- 21 世紀に輝く美術館とはどのようなものか。そこを詰めて考えてほしい。
- 長野の地に落ち着く理念が世界一である美術館になってほしい。
- 人、自然、呼吸にマッチした美術館を目指してほしい。
- 善光寺と美術館では訪れる目的が違う。美術館には美術に関心がある人しか集まらない。美術館を木造で建てたら特徴が出るのではないか。
- アートプロジェクトが日本中で頻発している。今までのアートプロジェクトにはない長野県式のことを考えられるとよい。
- 情報発信をお願いしたい。インターネットだけではない媒体でも発信してほしい。
- 役割・機能と建物は密接な関係がある。設計段階でも意見交換会を開いてほしい。
- 開館後も意見交換会を開き、運営のことを探ってほしい。

<開館時期>

- 開館スケジュールはどうなっているのか。基本設計は既に行われているのか。
- 「基本構想」はいつまでにまとめるのか。

<常設展示>

- 常設展示室はいらぬのではないか。収蔵品を企画化した展示にしたらどうか。

<県民ギャラリー>

- 広いスペースをお願いしたいが、使われない時のことも考えて検討してほしい。
- 立体作品の展示にも力を入れてほしい。
- 野外彫刻が展示できるスペースを作ってほしい。そうすれば、若者も県展に目を向けてくれると思う。
- 美術館を使う側も覚悟を決めないといけぬ。よい作品をつくって示さないと美術館が輝かない。

<美術による学びの支援>

- 教育的な役割に力を入れてほしい。将来、美術そのものがどうなるか不安である。
- 学校との連携は個々の学校ではなく、教育委員会と連携しないとうまくいかない。

<県内美術館との連携>

○幼児を対象にした講座を行っている。幼児は考えられないような作品をつくるが、小学生になると教える立場が強くなるため、その感性が切れてしまう。新美術館に子どもアトリエをつくってほしい。そして、子どもアトリエの実践を他の美術館でも提供できる仕組みをつくってほしい。そうすれば信濃美術館が北にあっても全県的な存在になれる。

(以上)